

1 令和4年度の教育活動の自己評価

(1) 教育活動の目標と方策について

- 【教科指導】** 目標： (1) 授業第一主義の徹底
 (2) 「書く力」やプレゼンテーション能力の育成。
 (3) 到達目標に基づき指導計画を共有し確かな学力の定着を図る。
 (4) 自学自習の態度、習慣の育成
 (5) 「大学入学共通テスト」に対応した授業内容の改善

新1学年から新教育課程の実施となり、観点別学習評価が導入された。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」だけでなく、「主体的に学習に取り組む態度」の育成について、教科主任会などで検討を重ねた。生徒の主体的な学びの育成のため、今後も教員相互の授業参観等の教員研修を実施していく。また、図書館や自習室を利用した自学自習も定着し、考査前には自習室以外の教室なども開放しなければならないほど、生徒の自習室利用者が増加した。

- 【進路指導】** 目標： (1) 補習・補講の充実
 (2) 模試データの活用等による進学指導力の向上
 (3) 進路相談の充実
 (4) 進路情報の発信力の強化
 (5) キャリア教育の体系的な実施

「夏期講習」や模試返却と解説を行う「学習ガイダンス」は、第3学年だけでなく、第1・2学年においても定着し、模試データを活用した進学指導を進めることができた。同窓会（篁会）と連携した「篁会特別セミナー」、理数研究校としての各種事業、帰国生による「Tトーク」等のキャリア教育も実施できた。

- 【生活指導】** 目標： (1) 人権尊重の意識の醸成を通じての豊かな人間関係の形成。
 (2) 都立高校生にふさわしい節度ある態度の育成
 (3) 学校行事の質的向上による学校生活の充実
 (4) 部活動の充実
 (5) 学習環境の整備・美化

「文化祭」は、3学年がアリーナ劇、2学年はクラス劇、1学年は映像発表に取り組んだ。3年ぶりに「体育祭」は駒沢公園競技場で実施することができ、「合唱コンクール」についても感染症対策を取りながら実施することができた。久々の対面での実施となったため、生徒同士の引継ぎが十分ではなかったが、その中でも生徒は主体的に行事に取り組んだ。行事の成功を通して、生徒の自己肯定感が高まったと考えられる。

- 【その他】** 目標： (1) 募集活動の充実
 (2) 情報発信の充実確保
 (3) 施設設備の安全及び教育環境の維持向上
 (4) ICT活用の強化
 (5) 教職員の働き方改革

夏季休業期間の学校見学会を開催し、10月の以降の学校説明会も対面式で開催し、今年度も約3,000人を集めた。外部の学校説明会にも参加し、学校PRにも努めた。新1学年から一人1台端末も実施され、Teams等を活用したオンライン授業なども定着し、生徒や教員のICT活用技術は向上してきた。

(2) 重点目標と方策について

① 学習指導の充実

「チャイムで始まる授業」の習慣は定着し、ICTの効果的な活用についての研修を継続することで、指導方法の充実につながると考える。

① 進路指導の充実、進路志望の実現

出願指導を丁寧に行い、国公立大学合格につながることができた。高い目標を掲げ、最後まで全力で取り組む生徒は増加している。

① 規範意識と社会性を育成する指導

SNS の使い方などを通じて、人権を尊重し、思いやりのある生徒の育成に努めた。今後も「あいさつの励行」を継続していく。

① 教育環境の整備等

校内の Wi-Fi、学習支援クラウドサービスの全校導入などの整備は整えられた。老朽化による空調設備が不十分であったことから、令和4年度から令和6年度にかけて、大規模空調工事を実施していく。

(3) 具体的な目標

① 難関国公大学（東京大、京都大、東京工業大、一橋大、医学部医学科）合格者6名、国公立大学合格者60名、難関4私立大学（早稲田大、慶応大、上智大、東京理科大）合格数100名

新卒（現役）者は、東京工業大学2名。国公立大学合格者合計は55名（うち新卒者51名・文部科学省所管外大学校を含む）、難関4私立大学の合格者は98名（うち新卒者91名）となった。

① 進学指導の充実に向けた具体的な目標

竹早塾の平日実施は定着し、生徒からの質問は多くはないが、考査前の自習室利用者は増加した。3学年2学期末考査以降の指導については、難関大学への合格を目指した直前期の指導に重点をおき、対応の充実が図れた。大学共通テストにおける、各科も得点率も全国平均の117%となり目標を達成した。

① 遅刻・欠席指導を徹底するための目標

全般的に学校中心の生活が定着している。今後も丁寧に指導を続けていきたい。

① 部活動への意欲を高め、学業との両立を高いレベルで追求させるための目標

規律ある部活動のもと、活発化してきている。部活動の加入率は100%超(116%)が継続された。

① 本校教育活動への理解を広げるための目標

都立高校全日制等志望予定（第1志望）調査結果による倍率は、1.9倍、学校ホームページの更新回数は286回となり目標を達成した。

2 令和5年度の重点目標とその取組

(1) 学習指導

- ア 教科担当者間、または科目・教科間での情報共有や連携をさらに深め、生徒の学力向上に資する体系的・組織的な指導を行う。
- イ 宿題、週末課題の内容及び分量の精選、定期考査等の難易度設定の工夫等により、自学自習（家庭学習）の習慣化を一層促す。
- ウ 「教員相互の授業参観」を組織的に行い、授業力の一層の向上を目指す。

(2) 進路指導

- ア 「先輩」や「帰国生」を生かした早期からの進路指導を充実させる。
- イ 教科・学年・進路部の連携による模試対策、模試分析を実施する。
- ウ これからの大学入試に対応した教員研修を実施する。

(3) 生活指導

- ア 実行委員への指導を適切に行い、体育祭、文化祭、合唱祭の質的向上を図る。
- イ あいさつの励行や遅刻防止指導を通じて、規律ある生活習慣の確立を図る。

(4) その他

- ア 「学校見学会」「学校説明会」の内容及び周知方法の工夫を図るとともに、学校の様子を中学生等にわかりやすく伝える。